

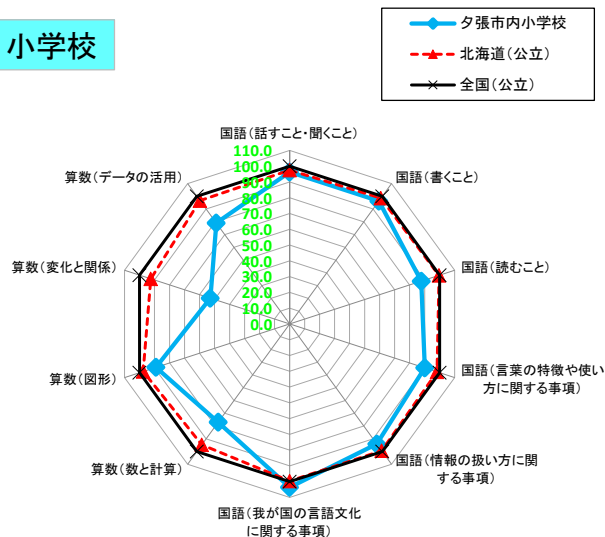
■夕張市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

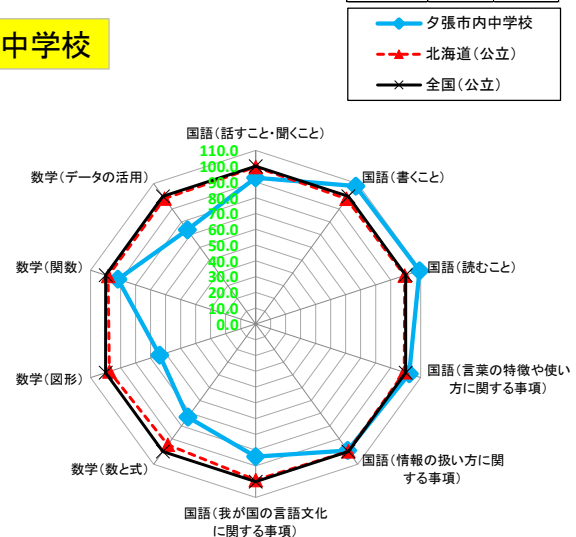
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	58
算数・数学	50	41

小学校

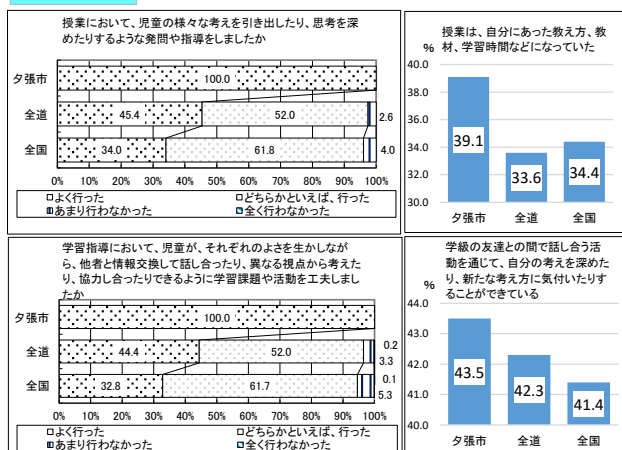


中学校

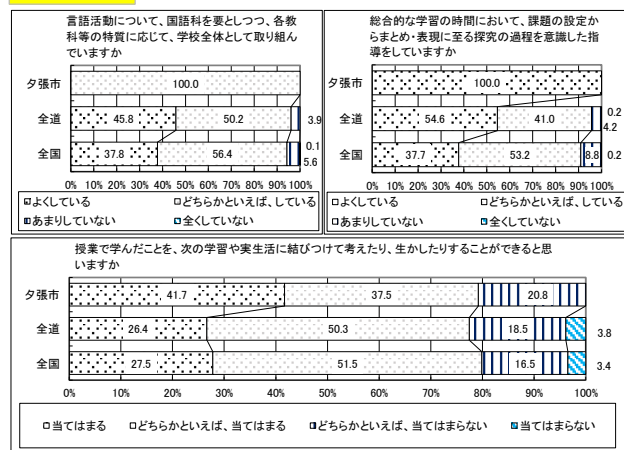


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたことにより、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【夕張市の学力向上策】

- ◎ 「ゆうぱりっこ、学び育成プラン」に基づく取組の充実と検証・改善
- ◎ 夕張市小中一貫教育推進委員会学習指導部による学力分析と改善方策の検討
- ◎ CSとの連携による家庭学習週間（ファミスタウィーク）の実施と学習習慣の改善
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用を図るための教員の研修機会の充実